

「水」の文字でしつらえた 池泉廻遊式庭園。

越後路から東北にかけて、ほかに類を見ないといわれる廻遊式の名園が「清水園」。
幕府庭方を招いたのは、新発田4代藩主溝口重雄(みぞぐちしげかつ)。
招かれた庭方は、幕府の茶道方であった縣宗知(あがたのむねち)でした。
しつらえに表現されているのは、近江八景、草書体の“水”の文字をかたどった池泉(ちせん)。
静寂。苔。古木。時の流れのなかに、10万石大名の下屋敷が息づいています。

旧新発田藩下屋敷庭園 清水園(国指定名勝) 足軽長屋(国指定重要文化財)

近世の新発田は、慶長3年(1598)に加賀國大聖寺から6万石で領地に入った、溝口秀勝から始まります。12代直正の時代に廃藩置県を迎えるまで、274年間にわたり溝口家に統治されてきました。慶長15年(1610)に沢海藩が分家されて表高は5万石に。万延元年(1860)には幕府の海防体制を担い10万石に。3代宣直の時代になると幕藩体制が確立され、藩主の権力は安定していきました。一方、藩をあげて取り組んでいた新田開発も大いに進みます。藩財政の充実、庶民の生活にゆとりが生まれ、人々の意識はさまざまな方向へ発展しました。新発田藩の下屋敷は、寛文6年(1666)に棟上げされ、元禄年間の頃に完成しました。4代重雄の時、遠州流の茶人で幕府茶道方であった縣宗知が江戸から招かれ、庭園の築造が行われました。清新な気風がみなぎった、江戸の元禄文化の舞台が新発田にも整い、藩主や家臣らを茶の湯や能楽の世界へ誘うことになります。地方文化の機運を大きくかもし出した新発田藩下屋敷「清水谷御殿」でしたが、やがて時は移り、昭和21年(1946)には北方文化博物館が管理する「清水園」として、現在も往時の文化を伝えています。

- 開園時間:
午前9時～午後5時(4月～10月)
午前9時～午後4時30分(11月～3月)
- 入園料:一般700円 小・中学生300円
- 休園日:1～2月の月曜日
(祝祭日の場合は開園、翌日休園)
12月29～31日
- ☎0254-22-2659
- 新発田市大栄町7-9-32 きたえちごMAP》◎

四季折々に違う風景を何度でも
春の新緑、秋の紅葉も、もちろん素晴らしいですが。私はむしろ、雨の清水園、また墨絵のような清水園が好きです。季節や天気、また心の在り様で、違った風景に見えるのも、おもしろ味があります。何度でも訪れていただきたいです。

清水園特別顧問
石崎 政弘さん

